

『横浜三溪園の紅葉狩り』のご報告

掲題イベントを12月5日に実施いたしましたので報告いたします。

参加者： 国分良志さん、国分美紗子さん、橋本一史さん、小菅義樹さん、島田秀夫さん、
長谷明拓さん、加村由雄(世話人)、加村玲子(世話人妻) 計8名

今回は、根岸線(京浜東北線)の根岸駅に集合いただき(10:15集合)、バスで三溪園の近く(本牧)まで行き、三溪園まで約10分歩きました。鉄道事故の影響で、集合時間に間に合わない方がありましたが、タクシーで追いかけていただき、ほぼ同時に三溪園の入り口に到着しました。入場券は900円(小生の勘違いで“じじばば割引”は、横浜市内在住者のみでした)。

11:00から予約しておいたボランティアガイドの案内で内苑を約45分間めぐりました。大イチョウと紅葉が同時に色づいており、なかなかの眺めでした。例年だと、大イチョウは11月末までには葉がすべて落ちている状態になりますが、今年はまだ残っており、得した気分になりました。

12:00から、今回の目玉の“臨春閣”の内部見物です(事前予約制、15人/30分、1,000円/人)。原三溪が内苑を眺めるために配置した建物といわれるだけに、建物内部からの眺めは素晴らしいものでした。

その後、園内の茶屋(“待春軒”)で昼食。多くの方が“三溪そば”を賞味されたようです。“三溪そば”とは、原三溪が考案したそばで、汁なしのものです。茶会に参加された方が着物を汚さない様にとの心遣いからのものだそうです。

食後は、“旧矢筈原家住宅”を見物し、山の上にある“三重の塔”、“展望台”をめぐり(展望台からは、富士山が望めました)、三溪園見物は終了しました。

帰路は、バス停まで歩き、根岸駅までバス、根岸駅で解散しました。

前日の暖かさがうそのような寒い日となりましたが、数日前の雨の予報がずれ、雨にならなかったのが、せめてもの救いでした。

三溪園内苑での集合写真(撮影 加村)



臨春閣内部から内苑を望むその1(撮影 国分さん)



臨春閣内部から内苑を望むその2(撮影 国分さん)



以上